

行仙宿巡回整備

◇実施日… 2021年7月11日(日) 晴

◇参加者；沖崎吉信、梶野照雄、山川治雄、大江加予子、畑清子
生熊千満子、高階美根子 7名

行仙宿付近では、行仙岳北側の段差改修、ストープの設置、モノレール小屋の撤去など、持経宿では水場上のタンク撤去、平治宿水場径改修等々、たくさんの課題が待っている。6月以降、降り続く雨のため日曜日に予定していた行事は全て中止になった。この日も天気予報は傘マークになっていたが、あとに控えている作業もあったので強行することにした。



お参りする



土のう袋を運ぶ



型枠を外して

午前9時、7名が登山口に集結し出発する。モノレール終点から荷物を分担して歩き出す。山川さんは土砂の詰まった大きな土のう袋を背負子に載せている。私は最後尾から皆さんを追う。

第2ベンチの手前、むき出しの岩で段差が大きい個所に迂回路が造られていて、土のう袋は迂回路の地盤固めのための物だった。第2ベンチ先、右に曲がって登りだした個所に50cmほどの露出した岩があり、いつも下るときに注意していたが、ここに梶野君がコンクリートで2段の階段を作ってくれていた。岩に穴をあけてアンカーを打ち込み、型枠をつくってセメント、砂、水を持ってきて3日(3回出向いて)で仕上げたそう。通過は2、3秒だがこの2段のおかげで安全性がかなり向上した。山川、梶野のお二方にお礼申し上げます。



通り初め



行仙宿に到着



旧通信道分岐に向かう

コシアブラの木の手前から、先日束ねておいた薪を手に行仙宿に着く。昼食までの間に、女性陣は櫛を採取して行者堂の御供取替や

整備を行う。沖崎、山川、梶野の3名は笠捨山の捲き道（旧通信道）分岐に向かい道標の更新を行う。杭も深く打ち込めて作業は5分ほどで完了、小屋に戻って昼食とした。



標識の更新

行仙岳北側の捲き道分岐

午後は大江、畑林の二人に小屋内台所の整備をお願いして、5名で行仙岳北側の段差改修に向かう。集めておいた段差材やハンマー、トンガなどの工具も持参した。

長雨や強風もあったたので倒木の心配もあったたが、道中はまったく異常なしだった。捲き道を経由したが、先行の山川さんから「ここに新しい道が出来てるぞ！」との声があった。後20m位で奥駈道と合流する個所に栈木を入れたきれいな道が造られていた。周りの杉の木に青いテープが巻かれている。この道を作るために切られたと思われる小さな切り株もあり、この付近の間伐のために新しく道を作ったようだ。あまりにも判りやすいので逆峯で捲き道を使うと、うっかり入り込んでしまう可能性がある。次回標識を立てる必

要があるだろう。



標識を更新

新しい作業道

本日の参加者

段差要補修個所に到着、数段の補修を試みたが、杭が短くて確実に固定はできなかった。この場所は地表が柔らかく、60cm近くまで杭を打ち込まないと確実な固定はできない。一時間近く現場で作業したが、再度出向いての作業が必要だ。

午後2時半頃に小屋に戻る。台所の整理をしていた大江、畑林の二人は鍋やフライパンなどを大整理、重複している物や汚れが酷いものなどを不用品として大量にまとめて下さった。

一つ気がかりなことがある。玄関ドアを入った土間が水浸しになっていることだ。以前に積雨雨が降った後にも同じように濡れていた。東側外壁のどこから雨水が侵入しているようで、隙間をコーキングして塞ぐ必要がありそうだ。これから台風シーズンなので早急に処置したい。

今日は登りより下りの方が荷物が多い山行だった。（記：沖崎）

行動タイム

登山口 09:13→10:16 行仙宿 10:50→11:00 旧通信道分岐 11:11→11:22 行仙宿 12:45→13:22 行仙岳北側 13:55→14:25 行仙宿 14:50→15:15 登山口